

HBC 3月22日(日)夕方 16:00～16:56 放送予定

幻の札幌オリンピック・・・戦火に散ったジャンパー

【番組企画概要 HBC 北海道放送報道部 岩下恵子】

2014年2月、ロシア・ソチで、22回目の「冬季オリンピック」が開催されました。80年に及ぶ「冬のオリンピック」の歴史の中で、ただ一度、開催が決定していながら、開かれずに終わった「幻の大会」があります。1940年2月の「札幌オリンピック」です。同じ年の9月には、夏の大会が東京で決まっていた。しかし、日本は当時、国際社会の中で孤立を深めていました。開催の3年前、日本は「日中戦争」に突入。アジア圏初となるオリンピックに国内が沸く一方、世界各国からの激しい非難にさらされていました。そして、日本は、オリンピックの歴史上、例がない「開催権」の返上を決断します。

「時代」は、刻々と360万人もの日本人の「命」が失われる、太平洋戦争へ向かっていました…。

若きジャンパーが、「札幌オリンピック」にかけていました。戦前の小樽に生まれ育った、久保登喜夫さんです。「日本選手権」などの国内大会で、久保さんは、相次いで優勝を果たし、「札幌オリンピック」の有力候補と見られていました。だが、「時代」は、それを許しませんでした。札幌での「夢の祝典」は、幻と消えたのです。

そして「時代」は、久保さんの命をも奪うことに。学徒出陣で徴兵され、終戦の年…沖縄で敵艦に特攻。23歳の命は、故郷の小樽が、満開の桜に包まれる季節、戦場に消えたのです。

戦前、開催されずに終わった2つの「オリンピック」。東京に比べて、札幌の大会は、なぜか語られることがほとんどありませんでした。終戦から70年となる2015年。久保登喜夫さんを知る人々を訪ね歩き、幻と消えた「夢の祝典」と、戦争が理不尽に奪い去った、若者の夢を辿ります。